おおい自然園

どんぐり道自然観察会

日時　平成２９年７月２９日（土）午前９時００分～１１時３０分
場所　ブルックス　どんぐり道
講師　一寸木　肇　おおい自然園園長
参加者　　８人
サポーター　６人
サポーター講座受講生　５人
職員　　１人

　これから、ブルックスのどんぐり道で自然観察会を始めます。
　今日はとても蒸し暑いので、こまめに水分補給をしてくださいね。
　また、気分が悪くなったときは、サポーターの方に伝えてください。

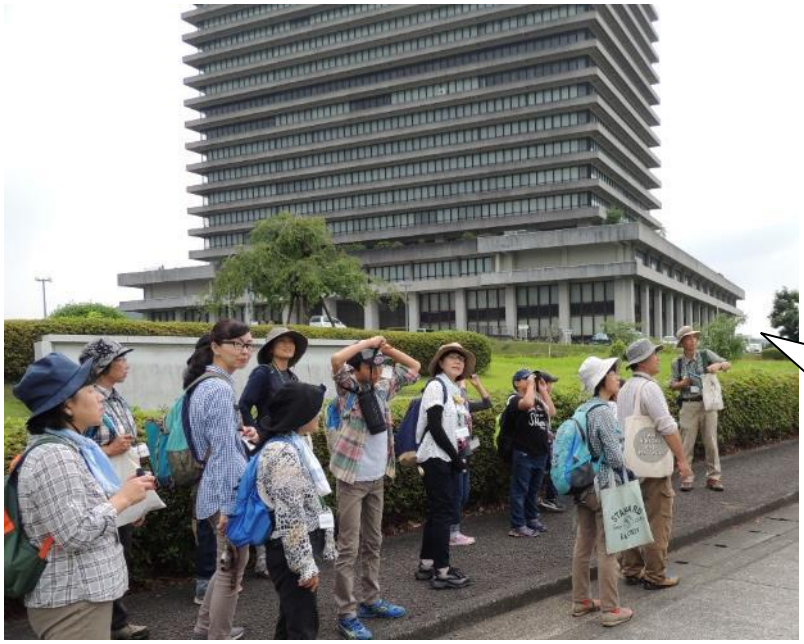
いろいろなセミの声

　今、いろいろなセミの鳴き声が聞こえますね。
「チ～」、「ジ～」、「シャーシャー」
　みなさんは、大井町に何種類のセミがすんでいると思いますか？

　答えは、ニイニイゼミ、アブラゼミ、クマゼミ、ヒグラシ、ミンミンゼミ、ツクツクボウシの６種類です。

「シャーシャーシャー」と聞こえるセミはクマゼミの鳴き声です。
　クマゼミは西日本で多く見られ、大井町では少ない種類でしたが、今では普通に見ることができます。環境が変化したのでしょうか。

クマバチはおとなしい



道路を歩いていると、「ブ～ン」というハチの音が聞こえてきました。音のする方を見ると黒いハチが飛んでいます。

このハチはクマバチというハチです。とてもおとなしいハチで、何もしなければ刺すことはありません。

これから、どんぐり道に入っていきます。どんな生きものに会えるでしょうか。

タケを観察してみよう

この林には、タケがたくさんあります。こういう林を竹林と呼びます。中国では昔から頭の良い人が竹林に集まって相談をしたことから、“竹林の七賢”という言葉があります。

タケは昔、中国から日本に持って来られました。なんのためでしょうか？
子「たけのこを食べるため？」「タケのざるを見たことがあるよ。」
そうですね、そのほかに建築材や楽器、食器や箸などいろいろなものに利用するために日本へ持ち込まれました。
けれども、現代ではタケが以前よりも使われなくなったので、増えすぎて管理できずに困っている地域もあります。

突然ですが、タケの一番てっぺん（先端）はどうなっているでしょうか？

確認してみましょう。

タケのてっぺんはこんな感じなのです。

あたっていた人
子　「ハーイ！」
「七夕飾りの時に見たことある
からわかったよ。」

そうですね。七夕飾りにはタケはなくて
はならないものですよね。

それでは、ここのタケの高さはどのくらいで
しょうか？どうやって調べますか？
子　「歩数で調べる！」

では、調べてみましょう。
大股で「１歩、２歩…１０歩」１０歩でした。
１歩の幅を測ったら１mだったので
ということは、今、倒れているタケの長さは約
１０メートルです。結構高く伸びるのですね。

タケの根を見てみよう。

タケは世界で一番伸びるスピードが速
い植物です。伸びる時期には１日で４０
～８０㎝も伸びます。・・・ということ
は、１時間に３㎝～６㎝伸びるというこ
とです。

ところで、みなさんは、地面の下のタケ
の様子を見たことがありますか？

タケの地下茎（タケの根）は横に長く伸びるのですね。

たけのこの皮とタケの節（ふし）の関係

タケには節がありますよね。
この“節”は何であるのでしょうか？

節はたけのこの皮がはがれた跡だったのです。そういえば、皮は何枚も重なっていますよね。

タケにはいろいろな種類があります。ここにあるタケはモウソウチクというタケです。
よく整備された竹林はとてもきれいですね。

キノコの役割

子どもたちが大きな木の切り株に何かを見つけました。

　これは、サルノコシカケというキノコの仲間です。このキノコは、木が早く枯れるのを助けて土に帰し、林を元気にする役割があります。
　また、マツタケというキノコはマツと助け合って林全体を元気にする働きがあります。このように、キノコには種類によって役割が異なります。

　ところで、地球で一番大きい生きものはキノコということを知っていますか？
　地上に見える部分はほんの少しで、大部分は地中に菌糸が伸びています。どのくらい伸びているかというと、調べたら３～４ｋｍもあったという報告があります。

木をさわってみよう

道の両脇に種類の違う木があります。
２本の木にさわって違いをみましょう。
どうですか

子　「左の木はごつごつしているけれど、右の木はすべすべだよ。」
「左の木は右の木に比べて冷たく感じる。」

木の種類や表面の状態によってさわった感覚が違うのですね。

左側の木はハリギリ、右側の木はイヌシデという木です。
ハリギリの葉は天狗のうちわみたいな形をしていますね。

道の横に横穴を発見

道のはしで横穴を発見しました。穴の前には土が盛り上がっています。誰が穴を掘ったのでしょうか。

穴の中をのぞいてみましょう。
中はどうなっていますか？
子　「右側に曲がって掘られているよ。」

この穴はアナグマの巣穴です。
それでは、アナグマは次のうちどれでしょう？

正解は、②番です。ちなみに①はハクビシン、③はタヌキです。
アナグマは巣穴をたくさん作りますが、実際に使うのはそのうちの一つといわれています。

黒い土の正体は

道の横斜面に茶色い土に混じって黒い砂を見つけました。黒い砂をさわってみましょう。
子　「土に比べてさらさらしている。」

この黒い砂の正体はなんでしょうか？

今から約３００年前（１７０７年）に富士山の宝永火山が噴火しました。そのときに降ってきたのが、この黒い砂です。

大井町の篠窪村では３０㎝もこの黒い砂が積もったという記録が残されています。つまり、この黒い砂は火山灰なのです。

土を観察すると昔、大地で起きたいろいろなことがわかるのですね。

この写真にある富士山の中腹の大きな穴が宝永火山です。

ただし、この写真は静岡県側からみた様子です。

くるくる回りながら飛ぶ種

道の落ち葉の上にくるくる回りながら飛ぶ種がたくさん落ちています。

拾って飛ばしてみましょう。

これはニワウルシという木の種です。
ニワウルシは別名でシンジュとも呼ばれますが、ウルシの仲間ではないのでさわってもかぶれることはありません。
　木にちょうど種がついています。双眼鏡でのぞいてみましょう。あそこから風に乗り飛んできたのですね。

ほのかに香るクズの花

　つるの植物に紫色の花が咲いています。花のにおいをかいでみましょう。ほのかに良い香りがしますね。
この植物は、クズという植物です。クズはとても成長が早く、ひと夏で１０～２０ｍもつるが伸びて成長します。また、根に含まれるでんぷんから作ったくず粉の植物として知られています。

いろいろなタケの種類

　雑木林を抜けて歩いていくと、先ほどのモウソウチクと感じが違うタケがありました。
左側のタケは、マダケというタケで、昔、物干し竿などによく使われました。また、右側にはササの仲間がはえています。
　タケにはいろいろな種類があり、利用の仕方も様々だったのですね。

マダケ

ササの仲間

カブトムシを食べたのは誰？

　このあたりにはカブトムシの死骸がたくさん落ちています。でも、腹の部分がありません。誰かに腹を食べられたのでしょうか？

これは、フクロウの仲間のアオバズクが食べたのです。アオバズクは夏の間に来る渡り鳥です。腹の柔らかい部分だけを食べたのですね。

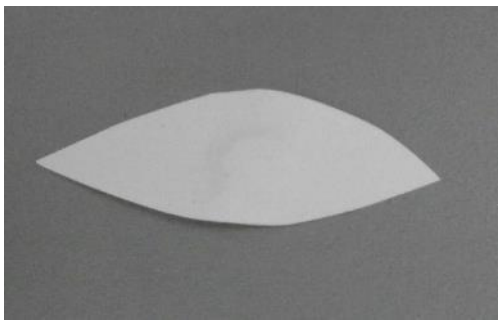
夏、雑木林では樹液が出る木にいろいろな昆虫が集まります。カブトムシも樹液をなめに集まり、おすはめすと出会い卵を産み、たくさんのカブトムシが翌年誕生します。そして増えたカブトムシを食べにアオバズクがやって来ます。アオバズクがカブトムシを食べないと、カブトムシが増えすぎてしまいます。

こうして、樹液の世界、カブトムシの世界、アオバズクの世界のそれぞれがバランスを保っているのです。けれども、このバランスが崩れてしまうと全ての生きものがいなくなってしまいます。例えば、樹液が出なくなると、カブトムシは雑木林に来なくなり、アオバズクもやって来ません。これらの全部をひっくるめて生態系と呼びます。

樹液がでるクヌギの木

ニワウルシ（シンジュ）の種をつくってみよう

ラベルシートに厚紙で作った丸い種の部分を貼り、はさみでニワウルシの形に切ります。



上から落とすと、くるくると回りながら落ちます。

ニワウルシの種は、くるくると回り、風を受けてより遠くへ種を運ぶような形になっているのですね。

種を実際に作ってみてニワウルシの知恵を知りました。